

渡邊海旭先生 校長就任百周年記念事業



いのちについて考える

公開シンポジウム

SCIENCE

第4回

科学の視点から

基調講演

“いのちをはぐくむ地球環境とサイエンス”

地球温暖化、脱原発といった地球環境に関するキーワードを耳にすることが増えています。危機意識を持たれている方も多いでしょう。講演者なりの問題意識をお話し、専門分野(物性物理学)を例にサイエンス(基礎科学)に何ができるのか、議論します。地球環境を守るため、サイエンスが発信する夢の技術、世界規模の超伝導ネットワークや電気をほとんど消費しないエレクトロニクスについて、お話しします。



高木 英典 (芝中高卒 74 回生)

東京大学大学院
理学系研究科物理学専攻教授

ドイツ マックスプランク固体研究所所長

【研究テーマ】

物性物理学、物質科学
固体中の電子集団が示す協同現象、特に超伝導、量子磁性、
金属絶縁体転移の実験的研究とその応用



シンポジウム

テーマ1 “生命とは何か！あなたの発想は理科系それとも文科系？”

テーマ2 “東洋哲学者が描く生命とは？ビックデータで考える生命とは？
文理共存の生命学、これを知れば、貴方も健康間違いなし！”

金谷 重彦 (芝中高卒 76 回生)

奈良先端科学技術大学院大学 教授

【研究テーマ】

ゲノム解析に続く技術の進歩に伴い、種々のポストゲノム実験により得られるようになった多様かつ膨大なデータを統合し、生命システムとしての普遍性および多様性の理解を目指すバイオインフォマティクス研究

伊東 貴之 (芝中高卒 76 回生)

国際日本文化研究センター・総合研究大学院大学 教授

【研究テーマ】

中国近世思想史(宋～清) 特に清代政治思想史および清代初頭～中葉期の政治観・人間観・倫理観などを中心として、日中および東アジアの文化交渉史

入場無料

予約不要

日時

2016年

1月23日(土)

午後2時～4時 [開場:午後1時]

会場

芝学園講堂

先着

1,200名

*どなたでも聴講できます。お気軽においで下さい。

芝中学校第三代校長、渡邊海旭先生が、明治44年(1911年)9月、校長に就任されてから一世紀を経た今日まで、仏教精神である「共生(ともいき)」のこころと、先生が校訓として定められた「遵法自治(じゅんぽうじち)」の精神は芝教育の根本理念として脈々と受け継がれてきました。

生徒ひとり一人の個性を尊重し、周囲の人々によって生かされていることを認識する人間教育は芝学園の誇りでもあります。

このシンポジウムも4回を数えることとなりました。第1回は「仏教」の視点から。第2回は「医学」の視点から。そして前回は「文化・芸術」の視点から、それぞれ「いのち」について考察してまいりました。今回は「科学」の視点から「いのち」との関わりを考えてみようと思います。

今年度も二人の日本人がノーベル賞を受賞されましたが、その分野は「生理・医学」と「物理学」でした。かけがえのないひとり一人の「いのち」は様々な科学の分野とどう関わり合っているのか、今回の基調講演とパネルディスカッションを通してお考えいただければと存じます。

芝中学校 芝高等学校からの発信にご注目下さい。お越しいただくことを心よりお待ちしております。

渡邊海旭先生 略歴

- 1872(明治5年) 浅草田原町に生まれる。
- 1887(明治20年) 浄土宗東京支校に入学する。
- 1898(明治31年) 西光寺住職となる。
- 1900(明治33年) 浄土宗第1期海外留学生として、ドイツ(現フランス)のストラスブルグ大学へ留学する。
- 1910(明治43年) 帰国する。
- 1911(明治44年) 9月、芝中学校第三代校長就任。のち逝去まで勤める。
- 1926(大正15年) 浄土宗の最高学位勲学に叙せられる。
- 1932(昭和7年) 仏教研究所所長就任。
- 1933(昭和8年) 1月26日逝去(61才)。

